

独立行政法人国際協力機構北海道センター（札幌）の取組①

取組のタイトル	開発教育/国際理解教育
取組の時期	(始期) 平成8年4月～ 継続中
関連するSDGsのゴール・ターゲット	
取組内容	
<p>○JICA 北海道（札幌）では、国際協力に関心のある小中高生、教員、一般市民を対象とした様々なプログラムを実施している。</p> <p>【国際協力出前講座】</p> <p>○開発途上国で活動してきた JICA 海外協力隊経験者や JICA 職員を講師として教育機関などへ派遣し、活動していた国や、生活事情など現地の様子を共有し、国際協力について考える講座。</p>  <p>【ほっかいどう地球ひろば訪問プログラム】</p> <p>○JICA 札幌センター併設の体験型展示施設「ほっかいどう地球ひろば」のツアーの他、地球案内人(JICA 海外協力隊経験者)の体験談や、世界の課題に目を向け、身近なものや世界・私たちのつながりを考えたりするワークショップの実施、JICAが行う事業やODA（政府開発援助）、SDGsについて学べるプログラム</p>	



【異文化交流プログラム】

○札幌及び札幌近郊地域の児童・生徒と、さまざまな開発途上国から来日している JICA 研修員や道内に在住する外国人との交流の場を提供するプログラム。語学習得ではなく、国際理解から国際協力への基礎を築くことが目的。



【小学生・中学生・高校生プログラム】

○国際協力に興味を持っている全道の小学生・中学生・高校生を対象に、参加型ワークショップを実施し、開発途上国の現状を知り、国際協力について考えるプログラム。例年、長期休み（夏・冬休み）に実施。

【指導者研修/教師海外研修】

○指導者研修：開発教育/国際理解教育の必要性・重要性と具体的な実践方法について考える研修。ワークショップへの参加や教材の分析等を通して、開発教育/国際理解教育を実践するためのスキルアップを図る。

○教師海外研修：開発教育/国際理解教育に取り組んでいる教員・教育関係者の方々を対象とし、開発途上国における国際協力の現場や、人々の生活を視察する研修。事前・事後研修とあわせて、現地での取材や体験をもとにしたオリジナル教材を作成し、授業の実践を行う。





【世界の民族衣装・展示パネルの貸出】

○世界各国の民族衣装・展示パネルの貸し出しを行い、学校の授業や学内の掲示、国際イベントなどに活用いただく。展示パネルには、JICA 北海道の取組み紹介や SDGs について記載されている。



独立行政法人国際協力機構北海道センター（札幌）の取組②

取組のタイトル	外国人材受入・多文化共生社会支援事業
取組の時期	（始期）令和5年～ 継続中
関連するSDGsの ゴール・ターゲット	 
取組内容	<p>○JICA 北海道では、これまでの事業で培った強みを活かしながら、全ての人が、国籍に関係なく、安全に安心して、差別や偏見なく暮らすことができる社会の実現を目指し、様々な取り組みを行っています。</p> <p>【世界の人びとのための JICA 基金活用事業】</p> <p>○持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、JICA 基金（https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/index.html）を活用した開発途上国・地域の人びとを支援する活動提案を募集しており、北海道センター（札幌）では、これまで、地域の多文化共生推進を目的とした案件を3件採択しています。</p> <p>○当事業を活用し、採択団体の1つである SHAKE★HOKKAIDO は2025年1月25日に「第4回北海道地域日本語教育シンポジウム」を開催予定です。</p>

第4回北海道地域日本語教育シンポジウム

WHY 北海道 ナゼここに? 新しいコミュニティ NEW

オンライン配信 参加無料

2025.1.25 SAT
13:00-16:30 申し込み締め切り 1.20 定員 250名

本シンポジウムは、北海道の多様な日本語教育の現場を知り、支援者の間にゆるやかなつながりを つくことを目的としています

今年も抽選企画あり!

- グリーンズ北見 オニオンスープ
- 蒲河の名産物
- 江別の銘菓
- 北見の銘菓 赤いサイロ
- 農産ワイン
- 詰まるごと1本! 切り身
- 当たる!!

オンライン配信会場		サテライト対面参加会場				
札幌	江別	北見	帯広	旭川		
キャリアバンク株式会社	市民交流施設ふらっと 〔江別国際センター〕	北見工業大学 〔北見工業大学・いろはの会〕	JICA北海道センター 〔帯広〕	旭川市国際交流センター アール旭川17階 旭川国際交流センター		

< SHAKE★HOKKAIDO ホームページ >
<https://shakehokkaido.studio.site/Y1xPp5V0/symposium04>

【NGO 等提案型プログラム】

○NGO・NPO、公益法人、大学、地方公共団体等 (NGO 等) によって実施される国際協力活動を支援するため、NGO 等に対して必要な知識や情報を広く提供するとともに組織運営や事業実施に係る能力強化を行う提案を募集しています。

○一般社団法人 北海道多文化共生 NET に受託している事業においては、外国人が参画できる地域コミュニティ形成を目的とし、北海道の地方自治体の参考となるモデルの構築を目指し活動を進めています。

< 過去の採択案件 >
https://www.jica.go.jp/Resource/partner/ngo_support/ngo_proposal/adoption.html

独立行政法人国際協力機構北海道センター（札幌）の取組③

取組のタイトル	研修員受入事業
取組の時期	（始期）平成8年～ 継続中
関連するSDGsのゴール・ターゲット	
取組内容 <p>○JICA では、開発途上国において国づくりの中心となる行政官等をわが国に招き、技術や知識の習得を支援することを目的として研修員受入事業を実施しています。</p> <p>○北海道センター（札幌）では、開拓・開発の歴史を背景とした多様性を認め合う開かれた地域社会、豊かな自然環境といった北海道の特性を活かし、地域振興・地域開発・地方行政、農業、教育、社会基盤整備・防災、民間セクター開発といった分野で、道内の地方自治体、学術機関、民間企業、各種団体等の取組から学びを得るため、年間400名弱の研修員を受け入れています。（2022年度の受入実績：388名 2023年度の受入実績：386名）</p> <p>研修コース例</p> <p>① 農民主体型用水管理システム</p> <p>道内の水利組織（土地改良区）が有する経験やノウハウを学び、自国での用水管理システムの改善や強化のための改善・強化策の検討を目指す研修コースです。</p>  <p>【参考 URL】</p> <p>https://www.jica.go.jp/domestic/sapporo/information/topics/2024/1541969_52738.html</p>	

② 道路維持管理

道路インフラの損傷や老朽化への対応として講じられる予防的・効率的な維持管理を学び、自国での効果的な道路維持管理実現のための対応策や改善策の策定を目指す研修コースです。



【参考 URL】


https://www.jica.go.jp/domestic/sapporo/information/topics/2023/1534920_14646.html
https://www.jica.go.jp/domestic/sapporo/information/topics/2023/1535634_14646.html

③ 中南米地域火山防災能力強化



火山を多数有する日本における火山監視観測や防災教育を含めた火山との共生について学び、同じく火山を多数有する中南米各国で、火山災害リスクの把握、適切な防災計画の立案、火山災害時の適切な行動を普及できる人材の育成を目指す研修コースです。



独立行政法人国際協力機構北海道センター（札幌）の取組④

取組のタイトル	持続可能な施設運営管理
取組の時期	（始期）平成 28 年 4 月～ 継続中
関連する SDGs の ゴール・ターゲット	
取組に指標を設定している場合はその達成状況	
指標：施設内 100%LED 化 →現状：達成率 80%	
取組内容	
<p>○JICA 北海道は敷地面積 8,265m²、延床面積 7,983m²、高層 5 階/低層 2 階の建物からなる。エネルギーの効率的利用の観点から平成 28 年より段階的に施設内 LED 化に取組み、本年までに 80%を達成した。</p>	

独立行政法人国際協力機構北海道センター（札幌）の取組⑤

取組のタイトル	草の根技術協力事業
取組の時期	（始期）平成18年～ 継続中
関連するSDGsのゴール・ターゲット	 
取組内容 <p>○JICA 草の根技術協力事業は、開発途上国の経済及び社会開発または復興に協力することを目的として日本のNGO/CSO、その他民間の団体、地方公共団体または大学がこれまでに培ってきた経験や技術を活かして企画した途上国への協力活動をJICAが支援し、共同で実施する事業です。</p> <p>○本事業は、対象国のSDGs課題解決に資するものであり、当該団体の事業経験・知見を活用し、日本の地域社会が直面する課題解決や地域の活性化に役立つ取組を行うことも期待されています。</p> <p>○本事業は、活動または成果報告等を通じて、広く日本の市民の国際協力への理解・参加を促す機会となっており、SDGs推進に貢献しています。</p> <p>【事例】 事業名： ネパール国ポカラ市給配水管理業務の体系化を目指した技術協力事業 実施団体： 札幌市水道局、公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター</p> <p>○提案事業の対象地域であるポカラ市では、河川表流水を取水した後配水池でさらし粉による塩素消毒のみを行い各家庭に給水している。このため、水道水の水質は季節による変動が激しく、雨季になると濁った水道水が蛇口から出てくる状況である。また、給配水管の老朽化や接合不良、粗悪な材料の利用により各所で漏水が発生していることから無収水量が多く、その結果、多くの地域では給水制限により、給水が行われるのは週に数回のみである。</p> <p>○このような状況を解消するために、JICA 無償資金協力事業より浄水場の新設や一部の配水管の更新が行われ、草の根技術協力ではポカラ市の水道事業を運営するネパール水道公社が水道水の質・量の維持管理に必要な業務を体系的に継続して実施できるように支援することとなった。</p> <p>○具体的には日常的な業務を体系的にまとめた「漏水対応標準作業手順書」及び「水質管理計画」の作成・策定支援を行っている。また、現地技術者が漏水対応及び水質管理業務を行うために必要な基礎知識や技術について現地研修及び本邦研修を通じて指導し、技術力の向上に貢献している。</p>	



音聴棒による漏水調査の実習



日本での研修に参加したネパール
水道公社職員と指導を行った札幌
市水道局職員等

独立行政法人国際協力機構北海道センター（札幌）の取組⑥

取組のタイトル	中小企業・SDGs ビジネス展開支援事業
取組の時期	（始期）平成 30 年 9 月～ 継続中
関連する SDGs の ゴール・ターゲット	
取組内容	
<p>○SDGs の多様で複雑な課題を解決するためには、様々な優れた技術、アイデア、知の結集が必要となる。そのため、途上国の開発において、中小企業などの日本企業の優れた製品、技術、ノウハウを一層活用し、課題を解決する取り組みが大きく期待されている。</p> <p>○また同時に、企業関係者の間においても、企業活動を進める上で SDGs や社会的課題への関心が高まっており、新興国の市場・途上国の経済社会 にビジネスの目を向ける動き、ESG 投資（注）や SDGs を経営戦略へ取り込む動きが広がっている。（注）環境、社会、ガバナンスの要素を考慮する投資）</p> <p>○このような潮流の中で、JICA は、ODA を活用した企業の海外展開支援事業を推進しており、海外展開調査制度を用意している。</p> <p>○「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」は、民間企業の提案に基づき、途上国の発展に役立つビジネスの可能性を調査・実証するもので、民間企業の優れた製品・技術・ノウハウを活用したい途上国と、途上国市場への進出を目指す企業の双方が Win-Win の関係を実現することを目指す事業である。</p> <p>○事業を通して日本企業が世界各地で活躍することで、開発途上国の発展に貢献を頂き、かつ、日本国内の経済成長につなげることを目指している。</p> <p>○公募提案による本事業は、各社の創意工夫に富んだ企画に盛り込んでご提案いただくことも特徴となっている。</p>	

【中小企業・SDGs ビジネス支援事業実施企業の現地調査の様子】



(写真：(左)東ティモールでの落石防護金網設置現場、(右)設置作業 提供/(株)ヤマコウ工業)

「東ティモール 道路斜面災害防除事業にかかる普及・実証・ビジネス化事業」



(写真：(左)インドネシアでの土壌掘削調査、(右)注水試験作業 提供/北海道ポラコン(株))

「インドネシア 雨水による浸水被害軽減のためのポーラスコンクリート製品導入にかかるビジネス化実証事業」